

高等学校の体育授業における 生徒の安全意識を向上させる授業実践 ーバドミントンの授業を対象としてー

学籍番号 239334
氏 名 今道 大貴
主指導教員 石川 美久
副指導教員 井上 功一

1. 背景

1.1 課題意識と研究の目的

令和5年の高等学校における男女の負傷件数の調査では、202,749件と報告されている（日本スポーツ振興センター、2023）。多くの種目において怪我が報告されているなか、バドミントンでは、眼球の負傷や熱中症などの重大事故が発生し、生徒の運動嫌いを引き起こす要因となっている（古田、2018）。運動嫌いや運動意欲の低下を防ぐためには、怪我や事故の予防などの生徒に「過度に痛い・怖い経験」をさせない教師の配慮が必要である。そのため、教員の安全に対する意識向上や授業改善に「安全・管理」の視点を取り入れた教育活動が必要である。

井谷ら（2022）は、身体的活動の多面的な価値をカリキュラムに盛り込む必要性を示しており、体育授業における生徒の安全意識を高めるカリキュラムが必要だと考えられる。

そこで本研究は、生徒の安全意識の向上を図るため、バドミントンの体育授業内に安全教育を取り入れたカリキュラムの有効性を明らかにする。さらに、体育の学習意欲や協働意欲等の因子への影響を明らかにする。

2. 研究方法

2.1 研究対象及び対象種目

対象者は、大阪府内の高等学校1年生155名（男子70名、女子85名）とした。男子を「介入あり群」、女子を「非介入群」とした。対象種目はバドミントンとし、体育館で実施した。

2.2 単元の概要

第2～6時限目における導入の8分間に、生徒の安全意識を高めるための安全教育を実践した。2限は学校教育全般の怪我、3限は衝突による怪我、4限は道具の管理、5限は熱中症予防、6限はブレインストーミングでリスクマネジメントを実施した。

2.3 アンケート調査及びデータの分析方法

体育授業における生徒の意識に関する調査を1限目と6限目終了後に実施した。アンケート項目は計23問であり、アンケートの回答方法は、5件法で回答させた。1時限と6時限終了後のデータを比較するために対応のあるt検定を行った。単元終了後にはバドミントンの授業を通じて学んだことや感想に関する自由記述式アンケート調査を実施し、テキストデータにまとめた。分析にはKHCoder3を使用し、単語間の関連性を検討する共起ネットワークを作成した。

3. 結果及び考察

3.1 体育授業における生徒の意識（アンケート調査）

男子は問6、7、8、9、10、11、12、13、14、18、19、20、23の計13項目が有意に向上した。これにより、体育授業内に傷害予防を理論的に学習する時間は、生徒の安全意識の向上に有効であることが明らかとなった。

一方、問1、4、5、16、17の計5項目は有意に低下した。女子は問3、6、10、11、14、15、17、18の計8項目が有意に向上した。このことから、8分間×5時限の計40分間の安全教育を実施したことで、通常の授業よりもバドミントンの技能習得や本質に触れる機会が減少したため、学習意欲や協働意欲が低下した要因であると推察する。

3.2 自由記述式アンケート及び共起ネットワーク

自由記述式アンケートの総抽出語では、男子の総抽出語数2,301語、異なり語数は449語、文数は106であった。頻出語においては、「安全（32回）」「大切（27回）」「学ぶ（23回）」の順に多かった。一方、女子の総抽出語は2,828語、異なり語数は474語、文数は139であった。頻出語においては「バドミントン（45回）」「楽しい（33回）」「思う（31回）」の順に多かった。

安全に関わる認識の記述の内容は、大きく「道具の管理意識」「周囲への配慮」「他種目と安全を結び付ける認識」「その他」の4つに分けることができた。授業内において、体育館の床や仲間との距離などの空間把握を意識する安全教育を実施したことが要因であると推察する。

4. まとめ

本研究の目的は、高等学校における生徒の安全意識を向上させるため、体育授業内に傷害予防に関する学習時間を取り入れたカリキュラムの有効性を明らかにすることとした。さらに、安全教育を取り入れた生徒の学習意欲や協働意欲等への影響を明らかにすることとした。その結果、生徒の安全意識を向上させるために、体育授業内に安全教育を取り入れたカリキュラムの有効性を明らかにすることができた。また、50分のうち8分間の傷害予防の理論を取り入れることで、生徒の安全意識が高まることが示唆された。

一方、今後の課題として、生徒の体育的活動や協働活動と安全について理論的に学ぶ時間配分を明らかにし、授業構成の確立が課題である。したがって今後は、さまざまな授業分析手法を活用して生徒の学習活動の時間を分析し、体育授業に安全教育を取れる有効性を明らかにする必要がある。